

# 創立100周年に使われたシンボルマーク

加藤 甲 壬 (技術部)  
Komi KATO

## はじめに

創立100周年を迎え、地質調査所の出版物、用紙等に記念のシンボルマークが付けられるようになった。使用されているシンボルマークは、昨年、地質調査所職員から一般公募し、選考された6点の図案から、さらに投票の結果、筆者の応募した第1図のデザインが光栄にも優秀作となり、創立100周年記念シンボルマークとして使用されることになった。

惜しくも入選を逸した応募作品の中にも、ユニークで素晴らしいデザインが幾つかあったが、結果的には、地質調査所のインシアルGSJを日本列島に図案化し、地質調査のイメージとしてハンマーを配したデザインが、平凡ながら一般の方々から見て、いかにも地質調査所らしく分り易いということで選ばれたのではなからうか。

## シンボルマークあれこれ

創立100周年、しかも国立の地質調査機関となると、科学先進国はともかく、世界的にはそれ程多くはないようである。第2図は、米国地質調査所(USGS)の出版物等に使用されたシンボルマークで、左側のバッファロー(野牛)を描いた内務省のマークは、古くから出版物の表紙などに印刷されていたが、それと並んで右側のUSGS 1879-CENTENNIAL-1979に、海・山・空とハンマーをデザインした創立100周年記念シンボルマークが使われたのを記憶されている方も多いかと思う。

最近では、国際的集會に必ずといってよい程シンボルマークが使われるようになったが、身近な例としては、3年後に開催される科学万博つくば'85の太陽または地球を示す円と、人間と科学の調和を表わす2つの軌道を三角形の中に配置したシンボルマークが、あちこちで目につくようになった。

ところで、世界各国とも地質関係のシンボルマークには、関連地域や特徴的シンボルにハンマーを配したデザインが目につくので、そのようなシンボルマークの幾つかを集めてみたのが第3図で、記念的な一時使用のほか、ほとんど月報など定期刊行物に継続して使われているもので、それぞれのお国柄が小さな円形の中に表現されているようで興味深い。

## これからのシンボルマーク

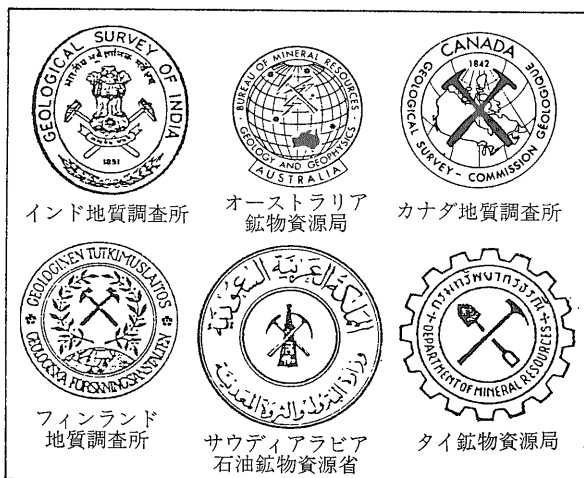
各国地質関係機関の経てきた歴史と共に、由緒あるシンボルマーク(紋章)が、ハンマーをあしらったもの以外にも数多くあって、創立の年号を入れたりして、刊行物の表紙を飾っている。100周年を一つの節目として、新たな歴史への貢献を目指す我が地質調査所にも、恒久的に使える紋章のシンボルマークがあってもよいのではなからうか。地質調査所出版物はもとより、調査用車輛に描かれたシンボルマーク、そしてネイビーブルーの布地に白抜きでGSJのシンボルマークが入った旗をマストに翻えして、海洋調査に白波をけたてる白嶺丸の勇姿などはどうであろうか。



第1図



第2図



第3図